

令和7（2025）年度
極真空手競技者助成金事業
活動報告書



1. はじめに

公益財団法人RAKERでは、極真空手に真摯に取り組む競技者の育成及び競技活動の継続支援を目的として、令和7（2025）年度に極真空手競技者助成金事業を実施した。

本事業は、競技者が大会出場、遠征、合同稽古、日常的な稽古、トレーニング環境の整備等に必要となる経済的負担を軽減し、競技力の向上及び心身の成長を後押しすることを目的とするものである。

本年度の助成対象者からは、助成金の活用により大会参加や遠征の機会が広がったこと、稽古量を確保できたこと、トレーニング環境を整備できたこと、怪我や仕事・学業・家庭との両立の中でも競技を継続する支えとなったことなど、多くの報告が寄せられた。

本報告書では、助成対象者から提出された完了報告書を基に、本事業の実施状況、活動成果及び今後の課題について総括する。

2. 助成による競技活動の支援

本年度の助成金は、主に大会参加費、旅費交通費、宿泊費、稽古費、月謝、用具費、トレーニング器具、サポーター類、健康管理費、治療費等に活用された。

特に、地方大会、全日本大会、国際大会、地区大会、錬成大会、合同稽古等への参加に伴う交通費や宿泊費の支援は、競技者がより多くの実戦経験を積むための大きな後押しとなった。経済的な事情により遠征や大会参加の機会が難しい競技者にとって、本助成金は挑戦の機会を広げる重要な役割を果たした。

また、日常的な稽古や自宅トレーニングに必要な用具の購入、道着やミット、サポーター、ダンベル、ボディミット、サンドバッグ等の整備により、継続的な練習環境を確保できたとの報告もあった。これにより、競技者は大会出場時だけでなく、日々の基礎体力づくりや技術向上にも安定して取り組むことができた。

さらに、怪我の治療費や身体のケアに助成金を活用した事例もあり、競技継続のためには稽古や大会出場だけでなく、健康管理やコンディション維持も重要であることが確認された。

3. 大会参加状況及び競技成果

助成対象者は、令和7（2025）年度において、全四国空手道選手権大会、国際フルコンタクト空手道選手権大会、全九州空手道選手権大会、全関東空手道選手権大会、東京都空手道選手権大会、全日本青少年フルコンタクト空手道選手権大会、各地の錬成大会等、多数の大会に参加した。

大会成績としては、国際フルコンタクト空手道選手権大会における優勝、全四国ウエイト制空手道選手権大会での優勝、兵庫県空手道選手権大会での優勝、愛知県空手道選手権大会の組手部門での優勝、群馬県空手道選手権大会の型部門での入賞など、複数の成果が報告された。

一方で、全国大会や地区大会においては、初戦敗退、二回戦敗退、順位外となった競技者も少なくなかった。しかし、各競技者は単に結果のみを捉えるのではなく、試合を通じて自身の技術面、体力面、精神面の課題を具体的に認識している。

報告の中では、主に攻防の組み立てについて、次の成長に向けた具体的な課題が挙げられていた。

このように、本事業は競技成績の向上だけでなく、実戦経験を通じた課題発見と自己改善の契機としても有意義であった。

4. 競技者としての成長

助成対象者からは、競技面だけでなく、人間的な成長に関する報告も多く寄せられた。

遠征や合同稽古を通じて、他地域の競技者や指導者と交流する機会が増え、より高い競技レベルに触れることができたとの報告があった。特に、世界や全国の舞台上で活躍する先輩競技者と稽古を共にした経験から、自身の練習量や意識の不足に気づき、日々の稽古に対する姿勢を見直すきっかけになった事例もあった。

また、空手を通じて、礼儀、感謝、周囲への心遣い、自己管理、継続力、規律の大切さを学んだとの報告も見られた。助成を受けたことに対する責任感や、支えてくれる人々への感謝の気持ち、稽古や生活態度の変化につながっていることは、本事業の大きな成果である。

中には、仕事を始めてから競技継続を諦めかけていたものの、助成金を活用して競技活動に復帰し、大会で優勝を果たした競技者もいた。また、子育てや仕事と両立しながら限られた時間でトレーニングを継続する競技者、怪我を経験しながら身体のケアの重要性を学んだ競技者など、それぞれの状況に応じた前向きな取り組みが確認された。

これらの報告から、本助成金は単なる費用補助にとどまらず、競技者が自身の目標を再確認し、競技を継続する意欲を高める支援となっていることがうかがえる。

5. 今後の課題

本年度の報告から、助成対象者の今後の課題として、主に次の点が確認された。

第一に、技術面の向上である。試合における間合い、攻防の組み立て、連続技、下半身と上半身の連動、防御技術、冷静な判断力など、より実戦的な技術の習得が必要であるとの報告が多く見られた。

第二に、フィジカル面の強化である。スタミナ、筋力、打たれ強さ、試合後半でも動きの質を維持する体力など、全国大会や上位大会で結果を残すためには、基礎体力のさらなる向上が必要である。

第三に、メンタル面及び自己管理能力の向上である。試合中の緊張やプレッシャーに対応する力、敗戦後に課題を整理して次に活かす力、学業・仕事・家庭との両立、時間管理、怪我の予防と身体のケアなど、競技活動を継続するための総合的な自己管理が重要であることが確認された。

また、怪我により十分な大会参加ができなかった競技者や、助成金の受給時期の関係で本格的な活動成果が次年度以降となる競技者もいた。これらの競技者については、今後の大会参加や競技復帰に向けた継続的な支援の必要性が認められる。

6. これからへの展望

令和7(2025)年度の極真空手競技者助成金事業を通じて、助成対象者は大会出場、遠征、合同稽古、日常的なトレーニング等に積極的に取り組み、それぞれの目標に向けた成長を遂げた。

大会で優秀な成績を収めた競技者がいる一方で、思うような結果を残せなかった競技者も、実戦を通じて自らの課題を明確にし、次の挑戦に向けた意欲を高めている。競技結果のみならず、挑戦する姿勢、継続する力、感謝の心、自己管理能力の向上といった点においても、本事業の成果は大きい。

極真空手は、身体的な強さだけでなく、礼節、忍耐、努力、感謝、克己心を育む競技である。本

助成金により、競技者が経済的な不安を軽減し、より高い目標に挑戦できたことは、将来の空手界を担う人材の育成という観点からも意義深い。

当財団は、今後も本事業を通じて、極真空手に真摯に取り組む競技者が、競技力の向上と人間的成長を実現できる環境づくりを支援していく。助成対象者一人ひとりが、空手を通じて培った力を社会の中でも活かし、次世代に良い影響を与える存在となることを期待する。

以上